

発行：海外養殖魚研究会

連絡先 〒171 東京都豊島区南池袋

3-15-13 前田ビル205号

（株）国際水産技術開発内

TEL 03-982-7139

No. 11. July. 1980

第12回海外養殖魚研究会が、5月23日、（株）OAFIC会議室で開催されました。

【テーマ I】 シリアにおける淡水養殖について 大橋氏

- シリアの淡水養殖は、1960年代にカラートムジューク近郊の夕カにおいて始められた。その後、豊かな湧水の利用できる地に養殖場が建設され、現任7ヶ所あり。その内5ヶ所は素掘り池を主体にして約60haのこい、テラピア養殖で、他の2ヶ所はニジマスのふ化場、養成場である。また、6年前ユーフラテス川への建設によりできた人造湖アサド湖では、網生養によるこい養殖試験が西ドイツ専門家の手で始められている。養殖対象魚種は主にこい（mirror carp）、テラピア（*Tilapia galilaea*, *T. obesa*, *T. nilotica*）、草魚、ボウ、ニジマスである。これらの内、こいはエジプトから導入され、草魚は4年前北朝鮮専門家が中国から導入された。また、*T. nilotica*は最近エジプトから移植されたものである。
- 赴任地は夕カの養殖場で、期間は1978年から1980年までの2年間。主に、こい、テラピアの種苗生産、混養および餌料試験等を行なった。
- 夕カの養殖場は稚魚池を含み約60haの止水養殖場である。ここでは種苗生産とともに4ha（200x200m）の素掘り池13面を用いて、主にこい、テラピアの混養を行なっている。池は素掘りのため、漏水と蒸発（乾期）が激しく、また各池によって保水量が異なり、異なる。従って、止水式とはいえ、注水を常時2l/sec/haの割合で行なっている。水温は湧水で17℃、止水池では5月～10月中旬にかけて常時20℃以上ある。当養殖場では放養前に鶏糞による施肥

を行なうが、放養後は行なわす投餌のみである。餌は主に小麦、メイス、配合飼料の3種を使用している。これら3種類の餌を使用して4~5トン/haの収穫があり、飼料効率率は3.0~3.5であった。赴任初年度は80トンの生産であったが、次年度は200トンの生産があった。配合飼料はミート・ボーン・ミール2%、綿実粕40%、小麦ハク芽4%の混合比で、ミート・ボーン・ミールのみイタリアからの輸入品を使用し、他は国内産を使用している。種苗生産は年間50万尾のコイを取りあげている。魚病は主として鯰ぐり病、白点病、および魚ジラミ、イカリムシ、キロダクテルス、キラドネウ等の寄生虫があった。また赴任期間中、冬期の魚管理が不十分なために、白点病が満ちし、大量斃死を招いた例があった。害敵生物としては、カエル、カメ、ヘビ等による稚魚の食害が顕著で、種苗生産において、これらの害敵生物の除去が大きく生残率に影響を与える。水生昆虫による稚魚の食害は他国ほど顕著ではなかった。シリア政府は動物タンパク供給源としての淡水養殖に非常な力を入れており、1981年度から水産5年計画がスタートし、その一環として、日本から協力隊員5名の派遣申請があった。主要業務はコイの網生養殖、ニジマス養殖、止水式コイ、テラピア養殖である。

#### 。 問題点。

- (1) シリアのような乾燥地帯では、時期による餌料としての青草の量の変動、他地域に比較し水中の動物プランクトン量の多さ等から、養殖魚種としては草魚よりもコウレンの方が適しているのではなからうか。
- (2) 害敵生物の駆除は当水域の養殖にとって重要なファクターである。
- (3) シリアを含む開発途上国での養殖にとって餌料は大きなファクターであり、今後はバクテリア等々の有効利用を図らねばならない。
- (4) Barbus, Labeo等原生地の養殖対象魚種の開発。

[テーマ2] 東南アジアにおける稲田養殖について 加福氏  
の内容については次号に掲載いたします。

# 1. 海外養殖魚研究会決算報告書

(1979年前期～1980年前期の計3期分)

入 金		出 金	
寄附	10,000	郵送料	17,610
会費	48,000 (延48人分)	コピー代	28,240
不用剰金	1,010	事務用品費	6,470
その他	300	その他	0
計	59,310	計	52,320

$$\begin{aligned} \text{残高} &= 59,310 - 52,320 \\ &= 6,990 \text{円} \end{aligned}$$

残金はそのまま1980年後期へ繰越します。

会費の未納分( )と1980年後期分1000円を早めにお知らせ下さい。上記の決算表にのけるとおり、会費はほとんど会員への連絡や、会報配布のために使われております。遠くへ在住したり、忙しかったりご勉強会へ出席できな方も、連絡を保つためによりよくお願い致します。

## 2. 出版事業について

当会では会員の経験や勉強会の成果等を取りまとめ出版活動を行なうことが確認されました。当面の内容は「海外水産増養殖シリーズ 一途上国における水産増養殖の現状と可能性を探る」と題するようになり、国別に増養殖を含めた水産業をとりあげます。その第一号として養殖研究所の秋山敏男さんが執筆したタンガニヤ編(500円+送料140円)がこの度出版されましたので、会員の購入と関心をもちそうなお個人、組織への本の紹介をお願い致します。当初、会員へは無料配布

を予定していたのだが、内容的に購読層が狭く、反面、印刷、製本等の直接経費が大きいため、有料とした次第です。シリーズは不定期ながら、年に4、5編出版を予定しており、継続的に購入をお願いします。次回にはア縮を予定し、原稿が中途まで仕上がっているものとして、ビルマ縮、フィリピン縮、シリア縮、イラン縮、クウェート縮、マラウイ縮もあります。会員の皆様も赴任した国や関心のあり国を対象として執筆を進めて下さい。

なお、出版、販売に関する事務は(株)国際水産技術開発が行なっています。

3. 才13回の勉強会を下記のとおり行ないますので、御参加下さい。

テーマ：東ヨーロッパ、特にブルガリアの水産事情について

報告者：加藤 竹一郎

日時： 8月1日(金) PM 6:00～  
勉強会後納涼会

場所：(株)OAFIC会議室

港区虎, 門1-21-19

秀和第2虎, 門ビル2階 Tel. 03(504)0769

最寄駅 地下鉄銀座線 虎, 門

## 海外養殖魚研究会

連絡先 〒171 東京都豊島区南池袋

3-15-13 前田ビル205号

国際水産技術開発内

TEL 03-982-7139